

Vandoren®
PARIS

MYマウスピースのすすめ

自分に合った、健康なマウスピースを使えば 上達も早いし、練習が楽しくなりますよ。

昨年創立90周年を迎えた国立音楽大学の学長を務めながらクラリネット奏者として活動し、多忙な演奏活動の傍ら教育者として30年以上も教壇に立ち続ける武田忠善氏。音楽大学での専門的な教育だけではなく、吹奏楽部に所属する全国の中高生を指導する機会も多い武田氏が語る「MYマウスピースのすすめ」とは。

マウスピースは 微妙に変化していくもの

——学校の吹奏楽部に新入生が入部したこの時期、気をつけるべきことはなんですか。

武田 ときどき新入生がマウスピースだけで練習していることがあります。マウスピースだけで吹く吹き方とクラリネットを吹く吹き方は違うので、あまりよくありません。初めにマウスピースだけの音のイメージをもつのではなく、初めから楽器にマウスピースを付けた状態で音のイメージをもつてほしいですね。

——マウスピースと楽器が一体になって鳴る感触をつかむことが大切ですね。

武田 そうです。また、楽器には楽器メーカーのマウスピースが付属しているのですが、マウスピースの専門メーカーであるバンドーレンのマウスピースを学校が備品として持っていたり、上級生は自分で買ったりにして、楽器付属のマウスピースが



れて、その間に何人もの生徒が吹いて消耗したものが多くので状態が良くありません。マウスピースはみなさんが思っているよりも柔らかい素材でできていて、変化しやすいのです。

——一見、硬い素材のように思いますが。

武田 柔らかいですよ。音を出すためにマウスピースのテーブルと言われる部分とリードが軽く接するだけでも少しづつすり減っていきまますし、歯があたつてちよつと先端に傷がついただけでもダメになってしまふことがあります。マウスピースは消耗

品と考えるください。

自分に合ったマウスピースを 選ぶことが上達への近道

——どのくらいの期間で買い替えるといいでしょうか。

武田 学校の部活で毎日のように使用するとしたら、3年ぐらいいを目安と考えてください。プロは毎日長時間演奏するため消耗が激しいので、もっと早いサイクルで買い換えます。消耗品だからこそ、自分のマウスピースを買うべきだと私は思います。

——それに状態の良いくないマウスピースで練習していても、むだな苦勞が多くなり、上達が遅くなるのでは？

武田 そのとおりです。例えば運動部の場合、ユニフォームやシューズなどは3年間同じ物が使えないと思います。マウスピースは大事に使えば3年間は使える。底がすり減ったり、穴が開いたりしているシューズで速く走ることは難しいでしょう。マウスピースも同じです。ですから、楽器本体はともかく、パートが決まったらすぐにでも自分に合った健康なマウスピースを買ってほしい。そしてできれば、買うときにはその人に合ったものを専門家や経験のある先輩などが選んであげると良いですね。

ランスロ先生からいただいた 伝説のマウスピース

——武田先生はフランスで恩師のジャック・ランスロさんに師事され、素晴らしいマウスピースに出会ったとうかがいました。

武田 はい、私は学生時代バンドーレンの5RVを使っていました。私がその素晴らしいマウスピースと出会ったのは今から40数年前に国立音楽大学を卒業後、フランスに留学したことです。留学2年目にランスロ先生が2、3ヶ月間日本に演奏旅行に行きました。私はフランスに残っていたのですが、ランスロ先生が日本に行く前に「これ良いから吹いてみなさい」と見たことのない新しいマウスピースを渡されました。吹いてみたら、そのマウスピースがすごく良い。「私はこのあと演奏旅行に行くから、その間貸しておいてあげましょう」と。その後、演奏旅行から帰国されたランスロ先生が「そのマウスピースは君にあげます」と言ってくれた。私はそのマウスピースをすごく気に入っていたので「ホントで

すか！」と驚きました。これが私と5RVライヤーの出会いです。このマウスピースは今でも私の中で伝説のマウスピースになっています。

——ランスロさんはバンドーレン社のアドバイザーをされていたんですね。

武田 そうです。日本での演奏旅行では5RVライヤーを持って全国を回った聞きまし。その演奏を聞いて、日本でも多くのクラリネット奏者がバンドーレン・マウスピースの素晴らしさを知り、現在も非常に多くのクラリネット奏者がバンドーレンのマウスピースを使用しています。

バンドーレンの 多様な選択肢

——バンドーレンからは数多くのモデルが発売されていますが、武田先生が中高生にお勧めするマウスピースは？

武田 やはり5RVライヤーですね。特に初心者にはお勧めです。初心者はいきなり硬いリードでは吹けないから、やわらかいリードでも吹けるモデルを使う必要があります。ただ、5RVライヤーは明るい音色

が魅力ですが、それが過度にならないようにと硬いリードをつけてしまうと息を入れるのが苦しくなってしまう。そうならないためにリードは2/2、人によっては3番を使うことを勧めます。

——無理なく、自然に息が入るセッティングをすることが大切ですね。

武田 そうですね。また、ときどき「1・2年生は3番、上級生は4番」とかいうように、マウスピースの違いは一切無視してリードの硬さを決めていて学校があります。それは良くありません。マウスピースの先端の開きによって適正なリードは違ってきますし、体の大きさ、口の形や歯並びはみんなそれぞれ違いますから、その生徒に合ったものを使うべきです。

——生徒の成長によってもマウスピースは変えるべきでしょうか。

武田 ええ、生徒の進歩の具合を見て、息がしつかりしてきたら、私自身も使用しているB40系統をお勧めしたりしますね。もちろん5RV系統をそのまま使用する人もいます。固定観念にとらわれず、先生や周りの意見をよく聞いて変えてみるのも良いと思います。

——武田先生の今のセッティングを教えてください。

武田 B40ライヤー・プロファイルにリードはV21の3/2を使っています。プロファイル、いいですね。正しい姿勢で演奏することが重要なのですが、元々の歯並びや年齢によって歯並びが変わって自分で気がつかないうちに良くない姿勢で演奏してしまっていることがあります。プロファイルはマウスピースを加える部分が少しスリムになってくるので、楽器を構える角度なども違ってきます。これも自分に合ったマウスピースを選ぶ選択肢の一つと言えるでしょう。



武田 忠善 (たけだ ただよし)

ソクラリネット奏者。1975年国立音楽大学器楽学科卒業。フランス国立ルーアン音楽院に留学し巨匠ジャック・ランスロ氏の下で研鑽を積み、同音楽院にて一等賞を得て卒業。1977年パリ・ペラン音楽コンクール第1位、78年第47回日本音楽コンクール第1位、続く第35回ジュネーブ国際音楽コンクールでは、日本人初の入賞をたし銅メダルを受賞。国立音楽大学演奏・創作学科教授として多くの逸材を育てるとともに、東洋人クラリネット奏者として初めてパリ国立高等音楽院でマスタークラスを担当する他、シンガポール、韓国、台湾、スペイン、アメリカに招聘されるなど、近年海外でも演奏家、教育家として大いに注目されている。2015年4月国立音楽大学学長に就任。